

研究集会報告

国際研究集会「幕末維新史研究と井伊家史料」

国際研究集会「幕末維新史研究と井伊家史料」開催について

ここに収めた諸論考は、二〇二二年一〇月一日（土）開催の国際研究集会「幕末維新史研究と井伊家史料」の報告内容に基づき、さらにそれを報告者がまとめ直したものである。

同集会は、『大日本維新史料 類纂之部 井伊家史料』（以下『井伊家史料』）全三十巻の出版完結を記念して、二〇二〇年三月に対面での開催を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によって中止を余儀なくされ、今回オンラインに形式を変更して開催し、一三八名の参加を得た。

集会は、次の二部構成とした。

第一部

菊地 久氏 北海学園大学名誉教授「幕末の幕府政治と井伊直弼」

朴 薫氏 ソウル大学校人文大学教授「幕末期幕府権力をどう見るか——「幕閣」という謎」

第二部

宮地正人氏 東京大学名誉教授「『井伊家史料』編纂と私」

母利美和氏 京都女子大学教授「『井伊家史料』と明治維新」

集会の冒頭で杉本史子が趣旨説明を行い、箱石大の司会のもと、講演・質疑が行われた。具体的な経過概要については、『東京大学史料編纂所報』第五八号「史料研究・成果公開」の国際研究集会「幕末維新史研究と井伊家史料」の記事を参照されたい。

『井伊家史料』は、彦根城博物館に所蔵されている「彦根藩井伊家文書」（国宝・重要文化財）の、幕末の大老を動めた井伊直弼に関わる史料を編纂・出版したものである。政治というものが具体的政策へと練り上げられていく過程と、それをめぐるさまざまな複雑な動き、また、実際には実行されなかった未発の政策や行動など、通常の幕政史料・藩政史料では窺うことのできない内容をもつ第一級の政治史料であり、大老側からみた大奥や將軍の動静といった、江戸城最深部の將軍家の動き、また、逆に、幕府側が探った探索史料からは当時の社会の微細な動きを知ることができる、多面的で多様な内容をもっている。本国際研究集会及び本号に収録した諸論考が、『井伊家史料』についての理解を深め、歴史研究の発展に資するならば幸いである。

（杉本史子）